
墜っこちた空

NANA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

墜つこちた空

【Nコード】

N3003Z

【作者名】

NANA

【あらすじ】

二つの世界が交わって織り成すどこにでもあるような適当なストーリー。個性的なキャラクターたちが自分論まくしたてて相手を困らすだけという適当なry

(1) (前書き)

主はどつちやらV系にはまっしてしまっただようです)

(1)

* * *

現在が過去の積み重ねというのなら、過去を持たない者は現在をどのようにして歩めばいいのだろうか。

黒髪の少女はその答えを見つけることの出来ぬまま、一つ頭を振るとその目を紅に輝かせた。

壮大に広がる自然の中心に、ひどく場違いな漆黒の城があった。ヴェスカ・アル帝国。周りの国々だけでは物足りず、この世の全てを支配しようと企むほどの強大な力を誇る帝国だ。

その力の中心にあるのは、魔物と呼ばれる異形の生き物たちだ。人間ほどの知識も文化も持たぬので、兵器や手下としては非常に使いやすい。その中でも特に攻撃的で大きな破壊力を持つ魔物を使うことで帝国は、一つ、また一つと国を我がものに行きわたらせていた。

アリンカ王国もその魔物の攻撃によって帝国の一部とされてしまった国の一つである。

それも、今までにないほどの強力な魔物 真紅の龍の一撃によって城を破壊されたのだ。国は降伏し、帝国に呑み込まれたが、元アリンカ王国の国民たちが受けたショックは、国が負けたということよりもその龍の存在によるものであった。

それは、元アリンカ王国の紋章に描かれている真紅の龍であった。

【0】

「素晴らしい……これ程の力があれば、世界を一つにするのにもそ

う時間はかかるまい。ようやく我が夢が叶うときがきたのだ」

色白で端正な顔立ちに、漆黒の長い髪。右目は前髪に隠れてしま
って見ることが出来ないが、非常に美しいその女性は薄く笑んだ。
彼女が座るのは大きな大きな玉座。そう、彼女の名は、ヴェスカ・
アル。この帝国の支配者だ。王としてはあまりに若すぎるが、現に
この世界の王になるうとしてしているとどこからしてかなりの実力者な
のであろう。

「お気に召されたようで何よりです、アル様」

王の前に跪すまたひくのは王よりもさらに若い少女だ。短めの黒髪を携え
るその少女に表情はない。

「なあ、アンよ。お前は我が何の為に世界を手に入れようとしてい
るかが解るか？」

不意に、王が少女にそう問いかける。

「……解りません」

アンと呼ばれた少女は、短い沈黙の後に素直にそう答えた。

「ふふ、だろうとも。常人には到底考えられぬようなことだからな。
まあ、そのうち解るだろうが」

王の満足げな表情にアンは少しだけ首を傾げると、「では、失礼
します」にこりともしないでしずしずとその場を後にした。

「こんなちっぽけな世界、時がくれば誰にだつてくれてやる」

一人その場に残った王は、誰に言うでもなくそう呟いた。

実験は、ますます良い方向へ向かっていた。

現時点だと、理論上は別世界への移動が可能である。

しかしそれには多大なリスクがかかる……別世界からこちらの世
界へ人を一人連れて来るだけでもどれ程の犠牲を払わねばならぬ
ことか。

ただし、ターゲットとなる世界は既に発見されていた。この世界
によく似ていて、尚且つこの世界よりも遙かに大きな別世界だ。

世界というものの存在は、そもそも百や二百などの少ない数では

ない。

それこそ数え切れぬ程の世界が、決して交わることはないように並行して存在しているのである。

別世界、異世界、平行世界、百万世界、パラレルワールド……人々はそんなふうに関心勝手呼んでいる。

帝国の王、アルは自分の世界にすっかり興味をなくしていた。世界は沢山あるのに、どうしてこんな小さな世界で一生を過ごせばならぬのか。それならいっそ、別世界への移住を考えた方が余程楽しいではないか。

別世界への移動などそうそう簡単なことではない。交わらぬ世界なら尚更だ。しかし、絶対に出来ぬものではないというのも確かなのである。これは王の父親の存在が根拠となつて考えられることなのだが、今やその父親の姿はこの世界のどこにもない。

そこで王は考えた。国民を犠牲にして別世界へ移動させる実験や研究をさせようと。人を皆支配することが出来たら無理な話ではない。

王には、生まれた時から不思議な力があつた。人の心を奪い、服従させる力だ。魔物には使えないのだが、簡単な儀式を済ませるだけで人間ならすぐさまに忠実な僕へと変貌する。

王はこの力を使って国の人間を支配した。しかし力というものは無限ではない。そのうち国が大きくなるにつれて、力の効果が薄くなつてきて反乱の兆しが見えてきた。

王は考えた。力をなるべく使わずに人を支配するにはどうするのが一番都合がいいか。言うまでもなく、人に恐怖を与えてやることである。

王はやがて、強大な力を持つ魔物、真紅の龍を操る少女を見つけ出したのだ。

それが先ほど王に跪いていた少女、アンなのである。

こうして事実上世界の頂点に立った王は、“その時”が来るのを今か今かと待ち続けるのであつた。

(1) (後書き)

ここまででは結構つまらん感じ。飛ばしてもらっても構わない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3003z/>

墜っこちた空

2011年12月10日17時51分発行